

図Ⅲ.3.4 フェーズⅡの研究連携図

(2) 研究テーマの推移

サブテーマの編成と推移については前述のとおりであるが、小テーマの推移については図Ⅲ.3.5に示す。

フェーズⅡには、サブテーマ A, B, D においてそれぞれ一つずつ、合計 3 つのベンチャーが立ち上がっており、サブテーマ A, B, D においては、それらとの共同研究が大きな柱となった。独自のベンチャーを持たないサブテーマ C は、福祉応用部として、基盤技術部のサブテーマ A と共同研究する体制をとった。

フェーズⅡへの移行に際し、旧 1-b は廃止し、旧 1-a と旧 1-c に吸収させ、それぞれ A1、A2 とした。これによりサブテーマ A (旧テーマ 1) は、高速分子進化の既存 *in vitro* 法の改良をめざす A1、既存 *in vivo* 法を用いて適応歩行技術の発展をめざす A2、新規な *in vitro*

法の開発をめざす A3、その基礎を発展させる A4 に再編した。各小テーマは市場価値のある分子をターゲットとし、実用性を顕在化させた。

旧 2-b は廃止し、旧 2-a にその一部を吸収させ B1 とし、相同組換えによる高速ゲノム進化のテーマを重点的に発展させた。特に、フェーズ I で立ち上げた抗体工学ベンチャー：カイオム社と共同でこの新技術・新産業を育んだ。以上、サブテーマ A と B で基盤技術部を形成した。

旧 3-1b は廃止し、旧 3-1c も対象を整理し、医療応用のサブテーマ C (旧 3-1) を実用化に向けて再編した。旧 3-2d を旧 3-2b に吸収させ D2 とした。また D2 からは環境ベンチャー・クラリス環境(株)を立ち上げ、これらにより、環境応用のサブテーマ D (旧 3-2) を実用化に向けて再編した。以上サブテーマ C と D で福祉応用部を形成した。

最終年度は、予算の圧縮による雇用研究員の早期退職への対処と、都市エリア産学官連携促進事業（一般型）「埼玉・圏央エリア」が 4 月に採択されたことに伴い、図Ⅲ. 3. 5 に示す通りの研究テーマに絞り込んだ。都市エリア事業は、(1) 相同組換え技術による高機能抗体作成と医療応用、(2) 医療シーズとしての特異的結合性ペプチド（ペプチドアダプター）の開発、という 2 つのサブテーマからなるプロジェクトであるが、それぞれフェーズ II における B1・C3 と A1・A3・C2 の主要テーマを発展させるものである。最終年度は実質的には 4 ヶ月間、都市エリア事業と並走することになったので、主としてターゲット分子によって両事業を仕分けた。

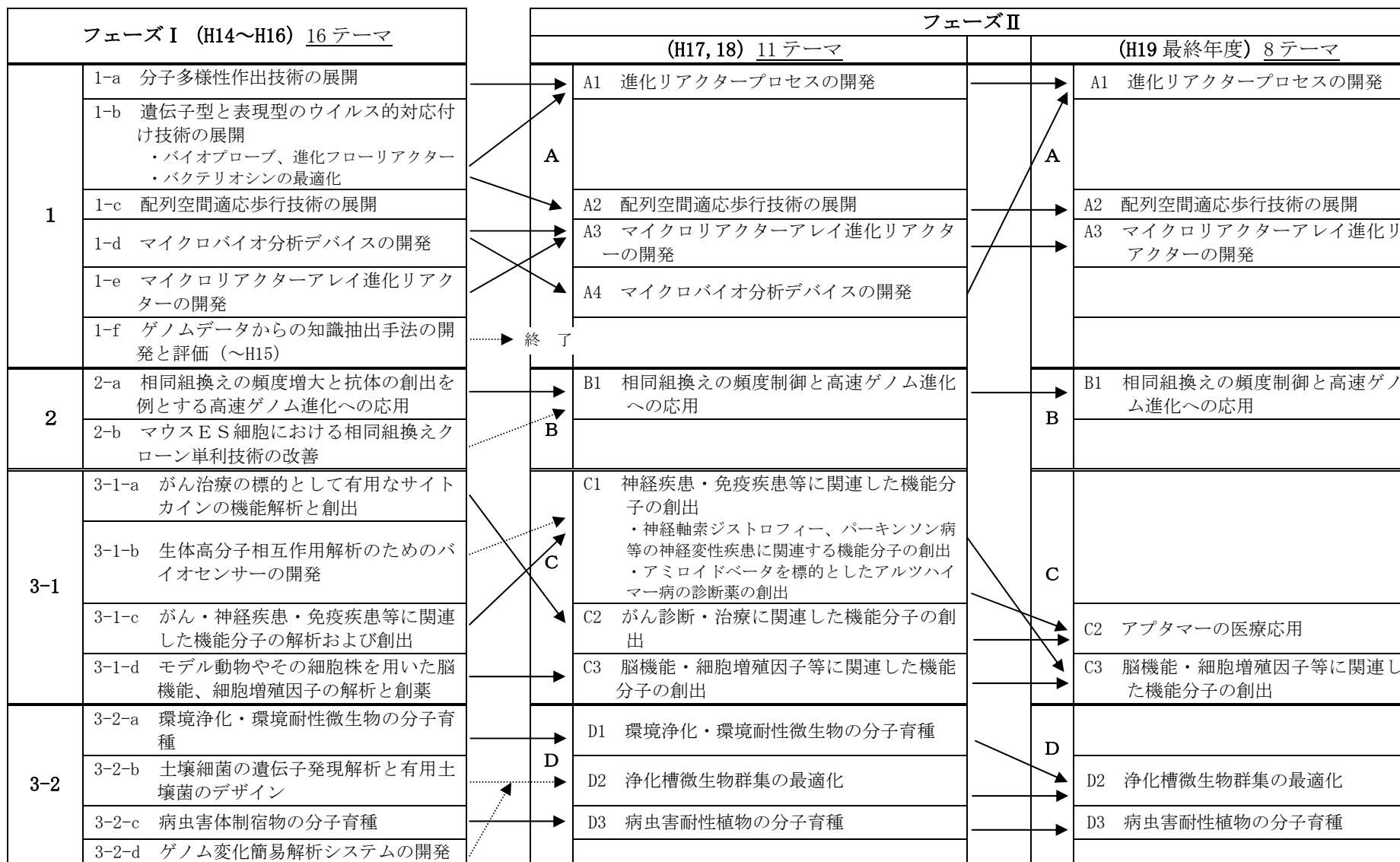


図 III. 3. 5 小テーマ編成の推移